

相模原市障害者殺傷事件について ～みんな1人の人間として生きている～

自立生活センター北見
代表 渡部哲也

平成28年7月26日にこの卑劣な事件が起きました。TVやマスコミでは、容疑者がいかに異常で残忍であるか！特殊な思想の持ち主で有るかが、報道され続けましたが、彼の特殊性の問題として片付けてしまおうとすることに、事件の本質があるのではないかと思います。

彼のいう「障害者はいなくなれば良い」という思想は、今の社会で想像も出来ないおかしなことなのではないでしょうか？ 現実には今の社会では胎児が障がい者であるとわかれば中絶を選択してしまう人や、学校や社会・お店や公共交通機関など、至る場所で障がい者で有る事を理由に拒まれる社会です。

そして重度障がいになれば尊厳を持って生きることは許されず、尊厳を持って死ぬ事だけを許可するという恐ろしい法律が作られようとしている社会です。

そんな社会の中で生きる彼が「障害者はいなくなれば良い」という差別思想を持ってしまったのはある意味不思議な事ではないと思います。

報道では「弱者」という言葉を何度も何度も耳にしました。今の社会では障がい者が「弱者」と言われる事に、何の違和感を感じることもなく、それに賛同し「弱者を狙った卑劣な事件」という思いだけが、印象に残っている気がします。「弱者」と聞くたびに、いつから自分が弱者になり、誰が自分のことを勝手に「弱者」だと決めつけたのかと考えます。

障がい者への認識が「弱者」から、「誰とも変わらない1人の人間」だという社会全体の意識が必要だと思っています。

現在、この事件が起こった津久井やまゆり園では、保護者が施設の大幅改修を要望しています。大幅な改修をして施設を立て直すことが解決ではなく、地域で暮らしていけず、施設に收容することしかできない社会の仕組みが

問題です。

今、この問題を「可哀想な事件」「犯人の特殊性の問題」このような事で片付けてしまったら、この先も同じような事件が起こるでしょう。同じ日本で起こった事件だけど自分の住んでいる地域ではないから、他人事のように報道を見ていた人も大勢いると思います。そうではなく社会で、地域で、誰もが暮らしやすい場所を作ること！命は全ての人が平等でなくてはならない！ということを考え、暮らしやすい地域を作っていくことが必要だと感じています。

障がい者が生まれ、地域社会で当たり前のように暮らすことができる社会を作ることがこの事件の問題解決に繋がるのではないかと思います。

誰もが普通に暮らせる社会！安心して暮らせる地域！そのためにこれからも運動を続けていこうと思います。



毎日楽しく仲間と共に、活動しています。
今年も自立生活センター北見を宜しくお願いします。